

秦野市立中学校給食基本計画（案）に対するパブリック・コメント の実施結果について

1 意見募集期間

平成31年2月16日（土）から3月15日（金）まで

2 意見募集の周知方法

広報はだの2月15日号及び市ホームページ

3 計画内容の公表方法

- (1) 本庁舎行政情報閲覧コーナー
- (2) 教育委員会学校教育課における閲覧
- (3) 公民館、図書館及び駅連絡所における閲覧
- (4) 市ホームページへの掲載

4 意見提出の方法

郵送、ファクス、電子メール及び持参

5 提出された意見、提案等の件数の内訳及び対応状況

反 映 区 分	件 数
A：意見の趣旨等を計画に反映したもの	
B：意見の趣旨等はすでに計画に盛り込まれているもの	
C：今後の取組みにおいて参考にするもの	27件
D：計画に反映できないもの	4件
E：その他（感想・質問）	3件
合 計	34件

「秦野市中学校給食基本計画（案）」に寄せられた市民からの御意見等

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
1	3 提供方式	小学校で行っている自校方式を、中学校でも採用するのが望ましい。親子方式も、条件が合う中学校で実施すれば経費節減につながる。	D	各中学校に調理場を建設して給食を提供する「自校方式」と、小学校で調理した給食を中学校に配送する「親子方式」について検討しましたが、自校方式については校舎内及び敷地内ともに必要な面積が確保できないこと、親子方式については大規模な改築工事が必要なことや、小・中学校の合計人数が最少で822人、最多で1,647人となり小学校給食への負担が過大となることから、実現は困難と判断しました。 こうした状況や推進会議の意見を踏まえ、小学校給食と同様の効果につながるよう、「全員喫食」と「食器・食缶方式」を前提とする「センター方式」を採用したいと考えています。
2		センター方式には反対。自校又は親子方式にすべきだ。	D	
3		基本計画案ではセンター方式としているが、可能な中学校だけでも自校方式か親子方式を実現してほしい。	D	
4		小学校の給食室で作って中学校まで届けることはできないか。	D	
5		推進会議の検討結果で「センター方式」の理由として、自校方式と親子方式の実現が困難なことを挙げているが、「空き教室の状況」、「親子となる小中学校の合計人数（食数）」、「小・中学校の間の土地の状況と、その土地を活用した共同調理場の可能性」等の資料も掲載してほしい。それぞれの利点について知らされると、実現困難な点だけが意識に残り、比較検討が難しくなるので残念だ。	C	
6		中学校給食には大賛成だが、センター方式では材料選びや調理方法等、栄養士の指導・関与がどこまでできるのか、安全・安心を保障できるのか、適温提供ができるのか疑問。宝塚市では37校を自校式で実施している。おいしい給食で成長する子どもたちは、かけがえのない私たちの宝であり、顔の見える給食提供を基本に条件を整えてほしい。	C	

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
7		センター方式は、1か所で調理して全校へ届けるため配送に時間がかかり、おいしく食べられないのではないか。	E	<p>専門業者の調査では、市域の中央部にセンターを建設し、保温性・保冷性の高い食缶を採用することにより、1か所のセンターで全ての中学校に適温の給食を届けることが可能との結果が示されました。</p> <p>御意見を参考に、栄養士や調理士の意見を聴きながら、未来を担う子どもたちのために安全・安心で温かく、おいしい給食を提供できるよう、検討を進めます。</p>
8		センター方式は、大規模調理となるため、働く栄養士や調理士の意見も聴きながら、なるべく手作り感のある調理が出来るような設備としてほしい。	C	
9	5 調理施設の整備手法	運営は民間活力を生かした「秦野方式」としているが、どこまで市がやるのかをはっきりしてほしい。民間の利潤追求型には反対だ。食材も地産池消を目指し、秦野の農家、秦野の小売店の活性化につなげてほしい。そのためには市の運営が必要であり、子どもたちの健康と安全のために理想を追求してほしい。	C	<p>御意見を参考に、様々な事業手法について引き続き検討し、今後の取組みに反映していきます。</p> <p>また、事業手法等については、事業費の多寡だけで判断するのではなく、「秦野市立中学校給食基本方針」に則り、安全・安心で栄養バランスに配慮した給食を実現しながら、より効果的・効率的なものとなるよう、引き続き検討を進めます。</p>
10		民設民営と公設公営について、それぞれの試算をしてほしい。試算して民間に任せても大きなメリットが無いと判断した場合は、公設や公営も選択肢に入れるべきだと思う。	C	
11		建物は市が提供し、民間委託になるのか。民間委託では当然「利潤」の問題が生じる。栄養バランスは良いものになるのか。	C	

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
1 2	5 調理施設の整備手法	秦野方式（公民連携方式）がどのようなものになるのかわかりにくい。給食計画、献立作り、材料の発注、調理、運搬、片付け等すべての作業を民間に委託するのか。他の自治体で実施・失敗したデリバリー方式と同じ内容にならないか心配なため、運営は公営でやるべきだ。地産地消を掲げ、食育推進まで謳っている基本方針はとても素晴らしいので、そこで働く人たちも、市の職員として同じ志しを持ち、誇りを持って公人としての職責を果たすようにすべき。食の安全・安心を追及するのであれば、利益優先の民間に任せるべきではない。	C	
1 3		運営を民間に任せる場合、適切に運営されているか市が管理できるよう、チェック機能を適切にしてほしい。		
1 4	その他	給食には設備と運営があるが、基本計画案では設備面の言及が多く、肝心の運営の記載が少ない。どのように運営するのかがあって設備が決まると思うので、明確にほしい。	C	基本計画は、関連施設の整備及び運営に関する基本的事項を定めるものです。 御意見を参考に、運営及び設備の一体的な整備手法等について、引き続き検討を進めます。
1 5		栄養士や調理員の役割を明確にしてほしい。食材の安全性を担保するため、発注の全てを市の栄養士が管理するように明記してほしい。また栄養士は何人配置するのか、適切な調理員の数は何人と考えているのかなど、民間に公募するにしても一番大切なところがない。	C	学校給食は、市の栄養士が献立を作成して材料を選び、調理等を管理・指導しています。 御意見を参考に、栄養士の配置等についても引き続き検討を進めます。

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
16	その他	空腹を満たすだけでなく、食育を進めることが大切だ。成長期の中学生、次代の秦野を支える若者のため、安全で心身ともに豊かになる給食としてほしい。	C	御意見を参考に、学校給食を「生きた教材」として、「食育」や「地産地消」の推進に生かせるよう、小学校給食事業とも連携しながら取組みを進めます。
17		学校周辺の農家から野菜を購入することが大切だ。秦野市は水が良く、生産される野菜も味が良い。この野菜を中学校周辺の野菜農家から購入すれば、農家の収入も増えてやりがいが増える。定年退職後に農業をやってみたいと考える人に移住してもらえば、人口も増える。	C	
18		秦野市の最高の観光スポットは「じばさんず」。農家への援助を増やして若い世代も農業に希望が持てるようになれば、じばさんずがもっと発展する。 秦野市の農地をつぶして 246 号バイパスを建設してはならない。秦野市の発展は、第一次産業である農業の発展と結びつける必要がある。	C	
19		秦野の名産品である落花生は高額なため、地場産を給食にとり入れるのは採算上大変かと思うが、「落花生大好きな市民、秦野の未来の担い手育成」につながる「秦野愛献立」を希望する。	C	
20		地産地消や地域（秦野）を知るための取組みを進め、安全な食べ物について検討すべきだ。	C	

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
2 1	その他	集金業務の負担軽減のため、教員や保護者の負担に頼らない公会計化などの方法を確立してほしい。	C	今後も保護者や学校と連携し、先行自治体の例も参考にしながら、本市に最適な手法について検討を続けます。
2 2		推進会議からの「生徒・教職員の負担軽減」の意見に賛成する。中学校給食は良いことだが、実施により教職員に今以上の負担をかけてはいけない。そのため、直接的・間接的な負担について検証し、教職員の意見も広く聴きながら進めてほしい。	C	
2 3		「基本計画案」をここまで決めてパブリック・コメントを求めるのはどういふものか。提供方式、建設用地及び整備手法までほぼ決まったかのように提案されては反対意見が出しにくい。せめて大きな枠組みの段階（センター方式の提案だけ）で意見を聞くべきではないか。場所も4つの案の中で、「Aで決めました」と読め、表現もおかしい。市民を惑わせるようなもので、パブリック・コメントを求めるのはいかななものか。アライバイ作りにしか思われない。推進会議の出した「基本方針」の5項目はとても素晴らしいと思っていただけに失望した。早期実現も大事だが、よいものを作ることが結果的には秦野スタイルとして評価されるのではないか。	C	基本計画案は、保護者、公募市民、学識経験者及び学校の代表で構成する推進会議をはじめ、生徒、保護者、教職員及び市民の皆さんからの意見を参考にしながら作成しました。 御意見は、今後の参考といたします。
2 4		子どもたちの成長に大切な「食」なので、安心して安全な食生活を送らせてほしい。安心してできないような給食であれば、今までどおり「母の手作り弁当」のほうがいい。	C	御意見を参考に、安全・安心して子どもたちの健全育成につながる中学校給食の実現に努めます。

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
25	その他	給食確定前に、保護者の試食会を開いてほしい。	C	事業の進ちよくに合わせた試食会の開催等について検討します。
26		子どもたちが食べて「おいしい」と感じられる給食にしてほしい。	C	
27		放射能検査について、安全・安心のため小学校と同様に食材の産地などの情報公開を進めて欲しい。 放射能について不安を持つ保護者や生徒がいる中で全員喫食となるため、不安を取り除けるよう、小学校同様に放射能検査は実施するべきだ。その体制も考慮に入れた計画としてほしい。	C	
28		残留農薬や添加物など、成長期の子どもたちに悪影響がない素材、提供者との信頼や連携が大切だ。	C	
29		成長期の子どもは、それぞれ食べる量が違うこともよく考えてほしい。	C	
30		推進会議の「センター方式」との結論と、要望事項の「中・長期的視点に立った自校方式の検討」の位置付けが説明不足。「財政負担を考慮した事業執行」と言いながら、「中・長期的視点に立った自校方式の検討」を要望する理由が分からない。中・長期的視点とは何年後を想定しているのか。要望とするなら直面する中学校完全給食をセンター方式とする費用と、中・長期的視点による自校方式（一体化または親子式）の費用等の比較検討資料も公開すべきだ。	C	

番号	御意見等の内容について		基本計画への反映状況	
	該当箇所	御意見の概要	区分	御意見等に対する考え方
3 1	その他	小学校は自校方式が維持されている。児童数が減少する中、親子方式などの方向に変えてほしい。未来に対する大人の責任だ。	E	御意見を参考に、今後も学校給食事業の充実・発展のため様々な視点から研究・検討を続けます。
3 2		「義務教育学校への移行」とはどういうことか。	E	義務教育学校は、義務教育課程の9年間を一体として行うために設置する学校です。本市でもその効果等について研究を進める中で、給食関連施設の整備についても検討していきます。
3 3		中学校の空き教室の状況によっては、「食堂方式」の検討も可能だったのではないかと。調理場の建設は無理でも、空き教室を活用して食堂を設置することで、配膳時間が短縮され、片付け等もスムーズになる。また、教室よりも食堂で食べるほうが衛生管理も行き届く。センター方式を採用する限り、運搬方法としてはコンテナや食器・食缶が必要となるが、「食堂方式」についても検討すべきだ。	C	中学校への食堂（ランチルーム）の設置は、空き教室の数や位置が限られ、また、生徒の移動や配膳に係る負担が大きくなり日課等への影響が懸念されますが、御意見を参考に、今後も調査・研究を続けます。
3 4		必要階に食堂の設置を加えて検討してほしい。	C	